

< あなたの治療について >

呼内-CBDCA/VP16-SCLC-q3w

今回の治療は、CBDCA/VP-16 療法という治療法で、カルボプラチン(CBDCA)とエトポシド(VP-16)という2種類の注射薬を併用して行います。カルボプラチン、エトポシドは、共に腫瘍の増殖を抑えるお薬です。2つの薬を組み合わせることで、より効果を高めることができます。

治療全体の流れ

今回の化学療法は3週間が1コースとなっています。各コースの1日目と2日目と3日目に点滴を行います。この治療を3週間(21日間)ごとに4~6回繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

1コース分の治療スケジュール

	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~3日目	4~21日目
	アプレピタント (吐き気止め)	内服	125	80	お休み

アプレピタントは症状に応じて上記日数を超えることがあります。

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2日目	3日目	4~21日目
	アロキシ デキサート (吐き気止め)	点滴 約30分		お休み	お休み	お休み
	デキサート (吐き気止め)	点滴 約30分	お休み			
	エトポシド (抗がん剤) 100mg/m ²	点滴 約1時間				
	カルボプラチン (抗がん剤) 5AUC	点滴 約1時間		お休み	お休み	

点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなつてはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

起こりやすい副作用について (頻度 20%以上)

カルボプラチン・エトポシドについて

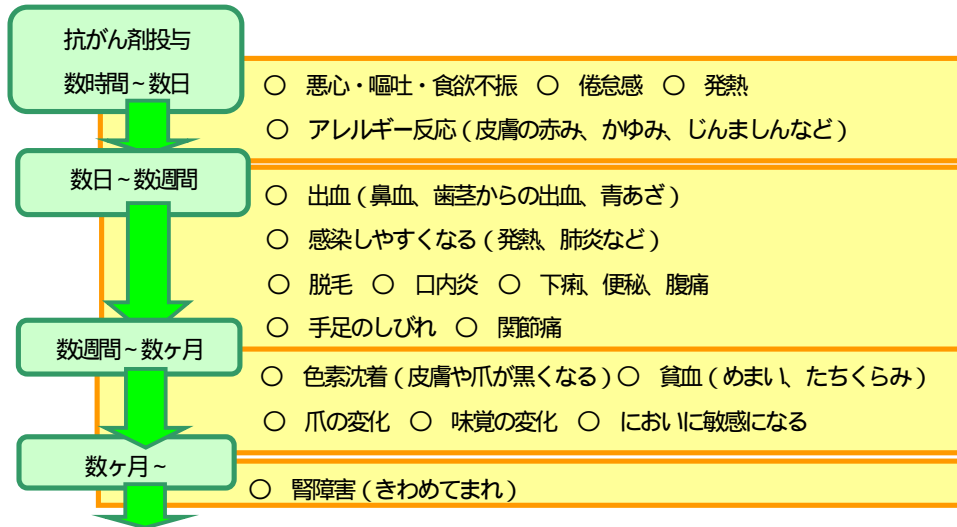
白血球減少、血小板減少、ヘモグロビン減少、赤血球減少、ヘマトクリット値減少
嘔気・嘔吐、食欲不振 脱毛

副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗がん剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



副作用の対策について

吐き気・嘔吐，下痢と便秘，口内炎，感染症，出血，貧血，脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、この様な症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【カルボプラチン】

<汎血球減少等の骨髄抑制> 発熱、悪寒、咳、鼻水が出る、めまい、出血しやすい、血が止まりにくい、あざができる、体がだるい、疲れやすい、息切れ、のどの痛み

<ショック・アナフィラキシー様症状> 唇や爪などが青紫色になる、胸や息が苦しくなる、急に気分が悪くなる、めまいがする

<間質性肺炎> 発熱、咳、胸や息が苦しくなる

<急性腎不全> 尿の出が悪くなる、血尿が出る

<肝不全、肝機能障害、黄疸> 黄疸が出る

<消化管壊死、消化管穿孔、消化管出血、消化管潰瘍> 激しい腹痛、下血

<脳梗塞、肺梗塞> 意識の低下、手足のしびれ、息苦しい

<血栓・塞栓症> 手足のしびれ、息苦しい

<心筋梗塞、うっ血性心不全> 動悸、息切れ、胸が痛い、苦しい

<溶血性尿毒症症候群> 出血しやすい、血が止まりにくい、尿の出が悪くなる、皮膚や白目が黄色くなる、めまいがする、皮膚に紫色の斑点ができる

<急性呼吸窮乏症候群> 急に呼吸が困難になる

<播種性血管内凝固症候群> 出血しやすい、血が止まりにくい

<急性膵炎> 上腹部の激痛

<出血性腸炎、偽膜性大腸炎> 激しい腹痛、下痢

<麻痺性イレウス> 食欲不振、悪心・嘔吐、著しい便秘、腹痛、腹部の膨満、腸内容物のうっ滞

【エトボシド】

<骨髄抑制>いつもより強く体がだるく感じる。38度以上の熱がある。

<ショック>休に気分が悪くなったり、安静にしてもめまいがする。

<間質性肺炎>咳き込んだり、息苦しい。

<過敏症>発疹、痒み、蕁麻疹など。

上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。